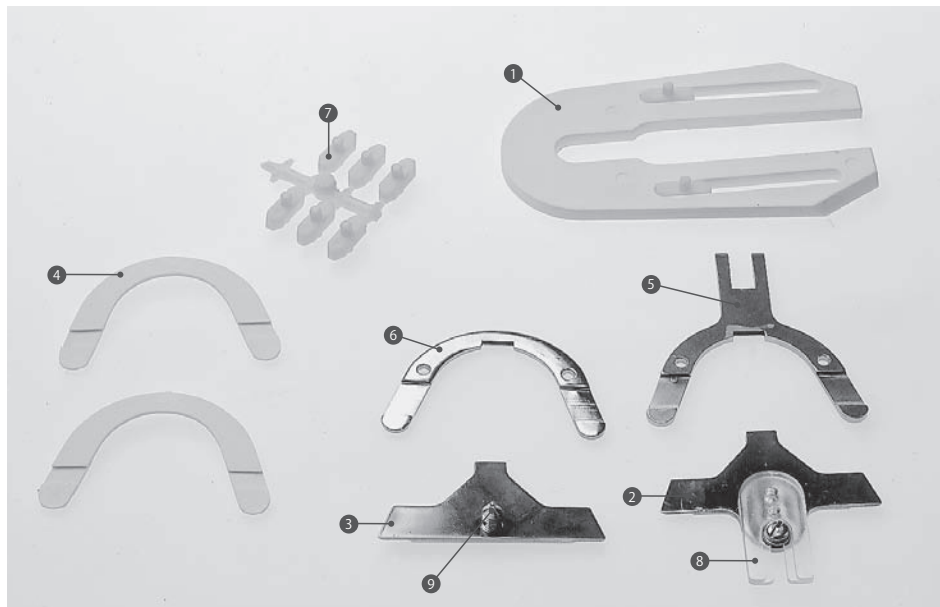


# Gnathometer M

ナソメーター M タイプ2 取扱説明書





ナソメーター M タイプ2

- 1 マウンティングプレート
- 2 上顎用レジストレーションプレート
- 3 下顎用レジストレーションプレート
- 4 バイトリム
- 5 上顎用ベーシックアーチ
- 6 下顎用ベーシックアーチ
- 7 アダプター
- 8 フィクシングプレート
- 9 マーキングピン

- Mounting jig
- Upper registration plate with fixation blank
- Lower registration plate with registration pin
- Occlusal rims
- Upper basic arch with UTS adapter
- Lower basic arch
- Adapters
- Fixation blank
- Marking pin

## はじめに

ナソメーター M タイプ2をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。本品は歯科専用です。本取扱説明書をよく読み、正しく使用してください。取扱説明書に従わず、誤った使用方法が原因で発生した不具合等に関して、弊社は責任を負いません。取扱説明書に記載している用途以外に使用する場合は使用者の責任のもとで行ってください。

## サインおよびシンボル

本取扱説明書では、重要な点等を見つけやすくするために、以下のサインおよびシンボルを使用しています。



注意



重要な情報



禁止

## 製品説明

無歯顎患者に対して最も信頼できる咬合採得は、ゴシックアーチトレーシングによって得られます。ナソメーター M タイプ2を使用することで、ゴシックアーチトレーシングのために、患者から追加のアポイントをとる必要がありません。

この手順は、BPS (Biofunctional Prosthetic System : 生体機能的補綴システム) の一部分であり、高い優位性が得られます。

## 適応症

- 追加の改良をせずに、全ての無歯顎のケースに適用できます。
- ユニバーサル トランスファーボウ (以下 UTS 3D) に直接取り付けられます。そのため、頭蓋や顎関節に関連する模型の位置確認が可能です。
- 概形印象から完成義歯まで、Ivoclar Vivadent は最高水準の材料や機器とともに、科学的根拠に基づく実用性が証明されたシステムを提供しています。

## 全体の流れ

### 技工所にて

- 個別の顎間関係 (咬合高径) を維持しながら、咬合器上で基礎床を製作します。
- 部分床用トレーを利用する場合は、別々に印象を採得し、レジストレーションに従って咬合器に模型を装着します。
- 顎間関係に従ってナソメーター M タイプ2を正しく取り付けると同時に、各個トレー (機能印象用) を製作します。

### 診療室にて

- 口腔内でナソメーター M タイプ2のバイトリムを取り付けた基礎床がフィットするか確認します。
- 基礎床とバイトリムが付いたベーシックアーチを一つにします。上下のバイトリムとともに、印象採得に影響を与える、舌の自由な動きを制限します。
- 次に直接ゴシックアーチトレーシングをするために、プライヤーを使用してバイトリムをレジストレーションプレートに付け替えます。
- その後、カンペル平面、またはフランクフルト平面に従って患者に UTS 3D を装着し、直接ナソメーター M タイプ2を固定します。

このシステムによって、詳細な補綴修復作業の基準として、頭蓋に関連するトランスファー同様に、上下顎の印象、正確な顎間距離の決定を可能にします。

結論として、以下の優位性が得られます。

- 基礎床は寸法安定性のある材料で作られます。
- 顎間関係を考慮した口腔内のレジストレーション装置の正しい装着ができます。
- 機能印象は1回の診療で可能です。

# 操作方法

## 1. 技工所での取り付け

### 1.1 マウンティングプレートによる調整

マウンティングプレートによって、ナソメーター M タイプ2は以下の通り調整します。

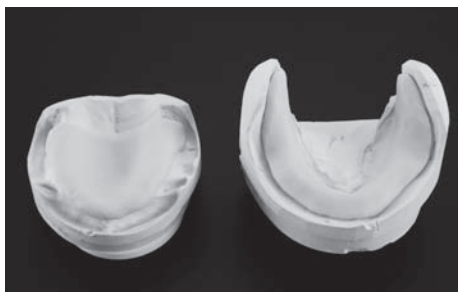
- ー マウンティングプレートの前方を顎間距離の1/2の高さに、後方をレトロモラーパッド基準点に合わせます。
- ー 水平的に口腔内を2分割し、口蓋の正中線で左右対称にします。



ナソメーター M タイプ2はマウンティングプレート上、矢状(前後)に動かすことができます。マーキングピンは小臼歯の位置に設定します。

### 1.2 基礎床の製作

通法に従い、SR イボレンを使用して基礎床を製作します。アンダーカットはワックスでブロックアウトしておきます。



### 1.3 ナソメーター M タイプ2の取り付け

下顎の基礎床に下顎用ベーシックアーチを固定します。



上顎の基礎床に上顎用ベーシックアーチを取り付けるために上顎模型に基礎床を載せて咬合器を閉じます。



こうすることでナソメーター M タイプ2はそれぞれの顎堤の位置に取り付けられます。

最終仕上げを容易にするために、マウンティングプレートとレジストレーションプレートを取り除きます。



**i** Ivoclar Vivadentではレジンを使用して基礎床に直接ベーシックアーチを取り付けることを推奨しています。これにより、診療中に安定させ、十分なスペースが確保できます。マウントする前にベーシックアーチ上にレジストレーションプレートが正しくセットされているかを確認してください。

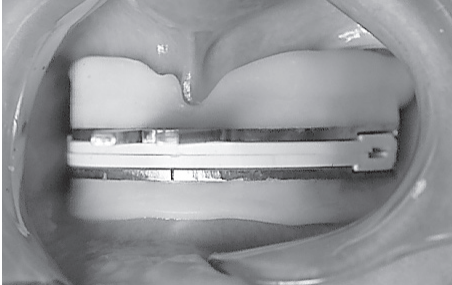
レジストレーションプレートの代わりにバイトリムも使用できます。(上下の)バイトリムの厚みとマウンティングプレートの厚みは一緒ですので、しっかりと締まります。垂直的な関係は変化しません。



## 2. 診療での作業手順

### 2.1 個人トレーの確認

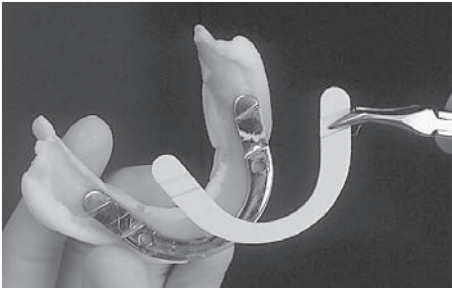
バイトリムの付いた各個トレーをチェックし、必要に応じボーダー部を調整します。バイトリムはデンチャーサポートエリアへ均等に力がかかるようにしてしっかり閉じます。



印象採得中は反対側のトレーを口腔内に残し、次のレジストレーションで正しい関係を得られるようにします。

### 2.2 レジストレーション

バイトリムを取り外し、レジストレーションプレートを代わりに入れます。マーキングピンを下顎に、フィクシングプレートを外したレジストレーションプレートを上顎にマウントします。



バイトリムが外しにくい場合、無理に取り外すとバイトリムの突起部分が破折する恐れがありますので、バイトリムとベーシックアーチの隙間にフラットなインストルメント等を使用して慎重に取り外します。

印象のボーダー部に傷を付けないために、ロングノーズタイプのプライヤーでレジストレーションプレートを装着します。患者が口を閉じた時に1点だけが接触します。



患者が口を閉じた時にマーキングピンで怪我をしないように、舌をレジストレーションプレートの下、または口の奥に置くように指導します。

### 2.3 咬合高径の確認

咬合高径をチェックします。必要に応じ、マーキングピンで高さを調整します。

ネジを1回転させると前歯部で高さが約0.8～1.0mm上下します。





マーキングピンは垂直方向に下げるよりも上げるようにします。つまり、咬合位が低い状態で印象採得し、実際のレジストレーションでマーキングピンを上げながら正しい位置に合わせることをお勧めします。機能印象中の垂直方向へのわずかな高さを考慮してください。

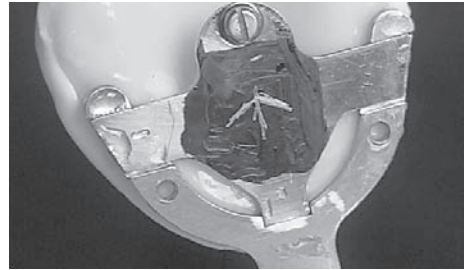
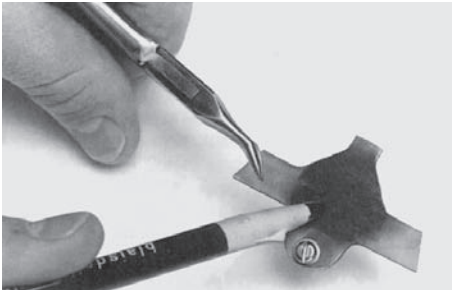
口腔内に装着したら、患者に次の運動をしてもらいます。患者にあらかじめ以下の運動を練習させることをお勧めします。

1. 下顎を前後方向に動かします(2回)。
2. 下顎を右側に動かし、戻します(2回)。
3. 下顎を左側に動かし、戻します(2回)。

咬合高径を調整した後、上下各個トレー（機能印象用）間の最後部にあるスペースを、フラットなインスツルメントで確認してください。トレーと余剰な印象材が触れ合わないようにします。下顎限界運動は正常に機能させてください。



ゴシックアーチのトレーニング時、頭が椅子にもたれないように、まっすぐ座らせます。



## 2.4 ゴシックアーチ トレーシング

ゴシックアーチのトレーシングを行うために、上顎の印象を口から取り出します。レジストレーションプレートを取り出し、ワックスカラー等を薄く塗ります。その後、プレートを口腔内に入れます。

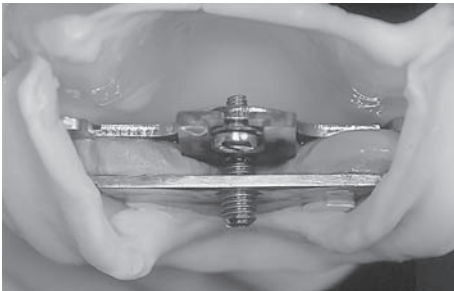
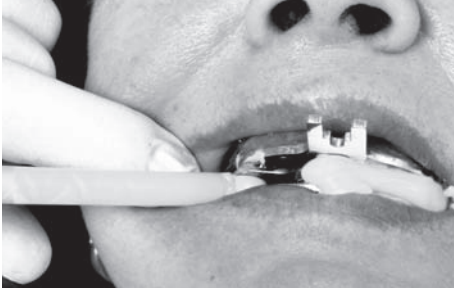
## 2.5 ゴシックアーチの確認

口腔内からレジストレーションを取り出し、チェックします。ゴシックアーチが不鮮明であれば、もう一度行います。固定と最終確認のために、採得されたゴシックアーチの中心位上にある2つの穴のうち、1つにフィクシングプレートを取り付けます。患者の口の中をチェックし、レジストレーションピンが開閉口運動でフィクシングプレートの穴に入るかを確認めます。ピンが何度も穴に入らない場合はフィクシングプレートを調整するか、レジストレーションをやり直します。



## 2.6 レジストレーションの固定

ベーシックアーチ間のスペースを、即硬性のバイト用印象材で埋めてレジストレーションを固定します。マーキングピンがフィクシングプレートに入っているか確認します。唇は放しておきます。



UTS 3Dを使用して口腔外でレジストレーションを行った場合、口唇の印象は、正面部分に石膏を追加して採得できます。

UTS 3Dによるボンウィル三角のトランスファーは咬合干渉を避けるのに役立ちます。模型は咬合器のジョイント部分でより正確に適応します。



口腔内レジストレーションを固定する際に、UTS 3Dアダプターを汚さないように注意してください。必要に応じ、固定する前にトランスファーボウを使います。きちんと収まるところまでレジストレーションジョイントをUTS 3Dアダプターに差し込みます。これが唯一の方法で、レジストレーションジョイントは技工所で正確に適用されます。

患者の頭部にトランスファーボウを装着した状態で、ナソメーター M タイプ2をUTSレジストレーションジョイントに固定します。

一般の名称：歯接触分析装置  
販売名：ナソメーター Mタイプ2  
届出番号：13B1X10049IVE009  
一般医療機器

製造販売業者

**Ivoclar Vivadent 株式会社**

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-28-24

TEL: 03-6801-1301 FAX: 03-5844-3657

[www.ivoclarvivadent.jp](http://www.ivoclarvivadent.jp)

[info.japan@ivoclarvivadent.com](mailto:info.japan@ivoclarvivadent.com)

PRE009I01



The logo features a series of seven black dots of varying sizes arranged in a slight upward curve above the text. The text 'ivoclar' is in a lowercase, sans-serif font, and 'vivadent' is in a larger, bold, lowercase, sans-serif font. A registered trademark symbol (®) is located at the bottom right of 'vivadent'. Below the main text, the tagline 'passion vision innovation' is written in a smaller, lowercase, sans-serif font.

**ivoclar**  
**vivadent**®  
passion vision innovation